

AK-47

東側の頂点に立つアサルトライフル
Report by KEN NOZAWA



Cover Illustration
National Archives
© WORLD PHOTO PRESS 2023
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS

032 戦場の神 AK-47の帰還

文/原克 (早稲田大学教授)

036 ベトナムを遠く離れて——。

私的ベトナム戦争映画/TVムービー Part 16 文/小倉徹

038 第52回 サイゴン物語 Saigon Memories

MACVがいたベトナム戦争「入口から出口まで」[01]

042 北ベトナム軍フォトアルバム

—彼らはいかにして進み、いかにして戦ったのか—

ベトコンを探せ!

048 NIGHT HUNTER OPERATION Part 4

056 Militaria Roundup!

U.S. ARMY シャツ & トラウザーズ Part 3

064 ウェスタンアームズ新製品レポート

by SHOTGUN MARCY

- キンバー・プロキャリア・カスタム ウッド・グリップVer.
- コルト・コンバット・エリート G10グリップVer.

074 トイガンニュース TANAKA WORKS

●四四騎兵銃Ver.2 ブラック 鬼胡桃銃床仕様

077 東京マルイ新製品レポート

by Takeo Ishii

- 次世代電動ガン H&K MP5SD6 実射レポート!
- SAA.45 4 3/4インチ シビリアン
- BIOHAZARD RE:4 SG-09R

SHARK SHOOTER LIVE-FIRE REPORT!

086 2022 IPSC Pan American Handgun Championship

by Muneki Samejima



089 THE グリーンベレー GREEN BERET

スペシャルフォースチームスペシャリティズ 後編

ニッポンのちからこぶ ●写真と文/菊池雅之

094 VIGILANT ISLES 22

098 新製品情報 COMBAT mono

100 サバゲ三等兵APS部 「広報オリモト VS 千葉」遺恨対決!

ボスゲリラ不屈のトイガン魂!

104 サバゲ・マスカラ・コントラ・マスカラ!

COMBAT FRONT LINE

107 今月中田焦点! BAF 改良型遠征用レベル7 プリマロフトバーカ OCPスコビーオン迷彩

108 新作映画情報新作映画情報 「母の聖戦」「戦場記者」「死を告げる女」

102 第26回 Stringer Blues 写真・文/横田 徹

106 レアミリタリーテクノロジー

109 遊戯銃生誕60周年記念 ASGK特別プレゼント

111 奥付&次号予告



ミリタリースポッター

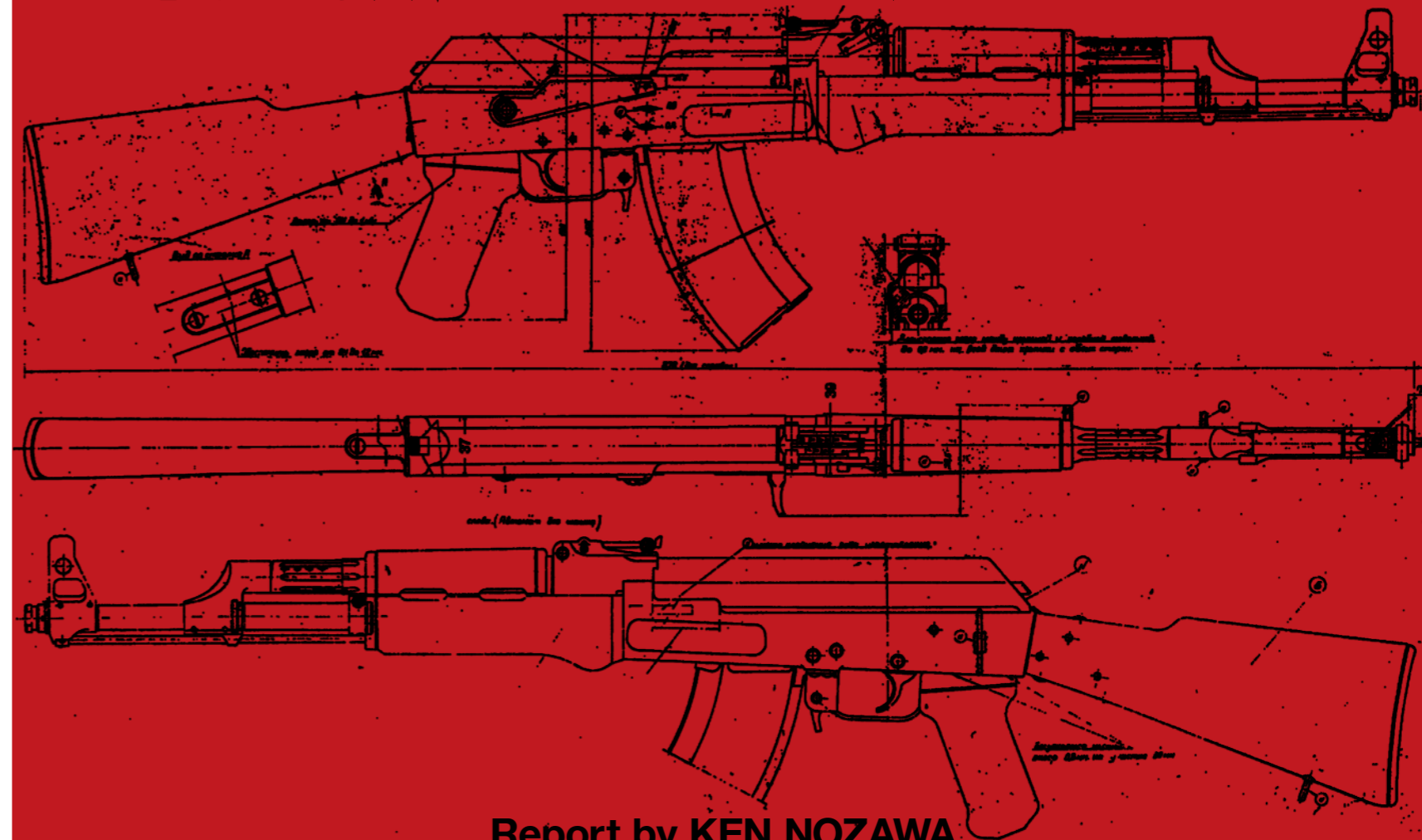
The tradition of “Operation Christmas Drop” by the DoD’s longest-running humanitarian airlift operation began in 1952.

Members of the U.S. Air Force, Japan Air Self-Defense Force, Royal Australian Air Force, Royal New Zealand Air Force, and Republic of Korea Air Force pose for a group photo during Operation Christmas Drop 2022 at Andersen Air Force Base, Guam, Dec. 3, 2022. Photo/U.S. Air Force, Yasuo Osakabe

「クリスマスドロップ作戦」はグアムにあるアンダーセン空軍基地を拠点にして毎年、実施されている。この作戦はアメリカの国防総省が1952年にスタートさせた人道支援目的の活動である。2022年は12月3日に、米空軍、日本の航空自衛隊、オーストラリア空軍、ニュージーランド空軍、韓国空軍からボランティアが集まり、プレゼントを梱包して輸送機を使ってドロップするまでの作戦に参加した。

AK-47

東側の頂点に立つアサルトライフル



Report by KEN NOZAWA

Photo / U.S. ARMY, U.S. NAVY, USMC, USAF, U.S. DEPARTMENT OF JUSTICE, AUSTRALIAN WAR MEMORIAL, WPPコレクション
図版解説 / 鈴木健太郎

CIA

CENTRAL INTELLIGENCE AGENCY INFORMATION REPORT

New SMG and Carbine

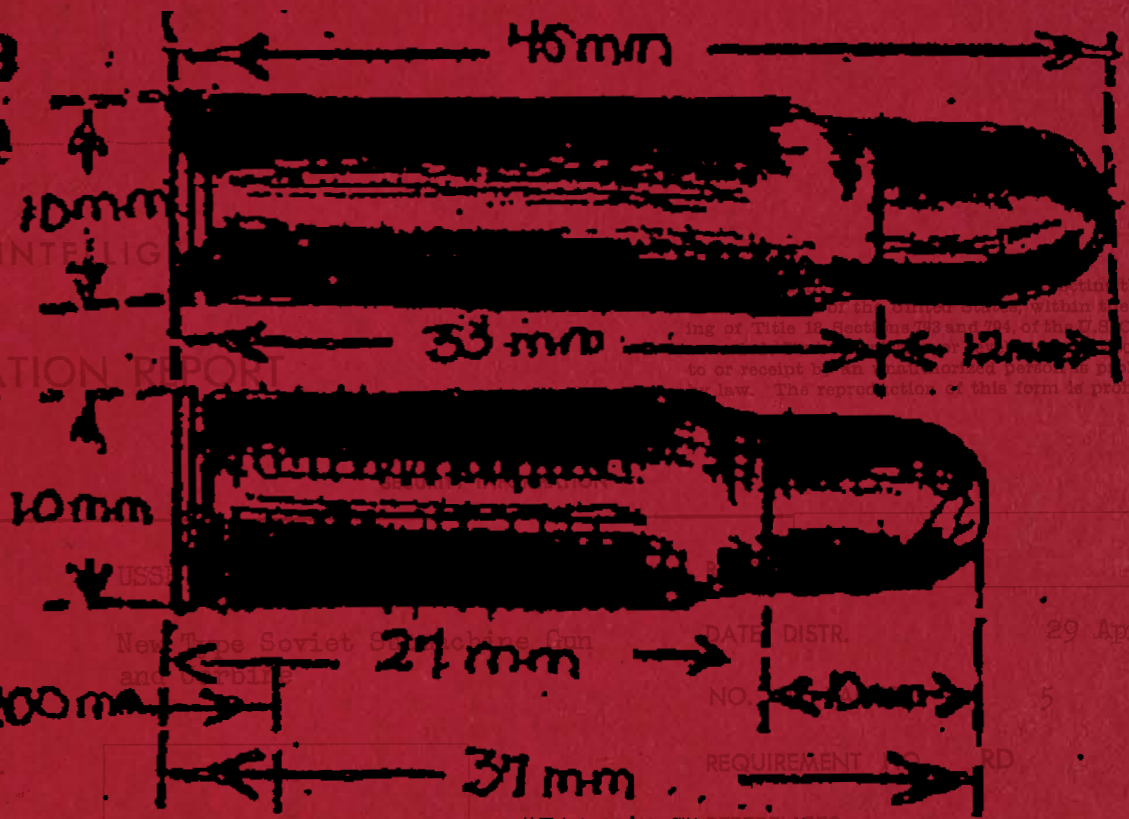
Cartridge

SMG-PPSh

TT-M-1930

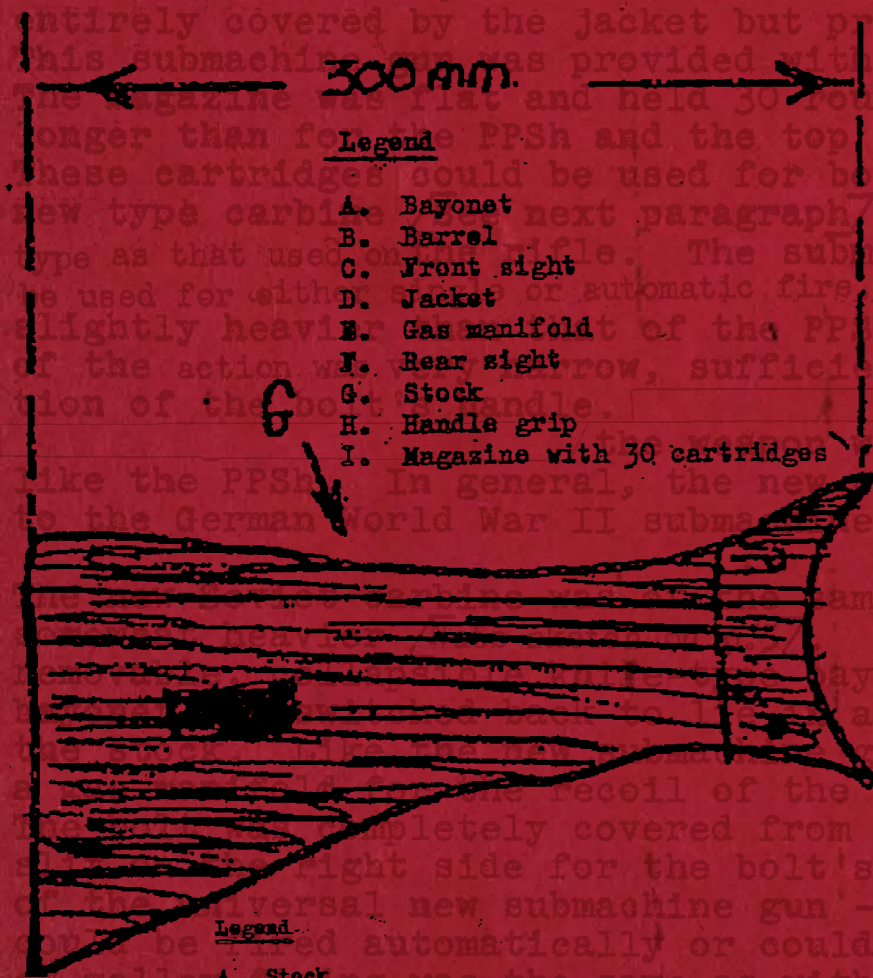
Cartridge

第二次大戦後の冷戦下でソ連が開発したAK-47は当初その存在が秘密とされており、アメリカが具体的な情報を掴んだのは50年代に入ってからだった。もっとも新しかっただけでなく、もっとも謎に包まれていたAK-47はどのように捉えられていたのか、1953年と55年に提出されたCIAエージェントのレポートを通じて探る。



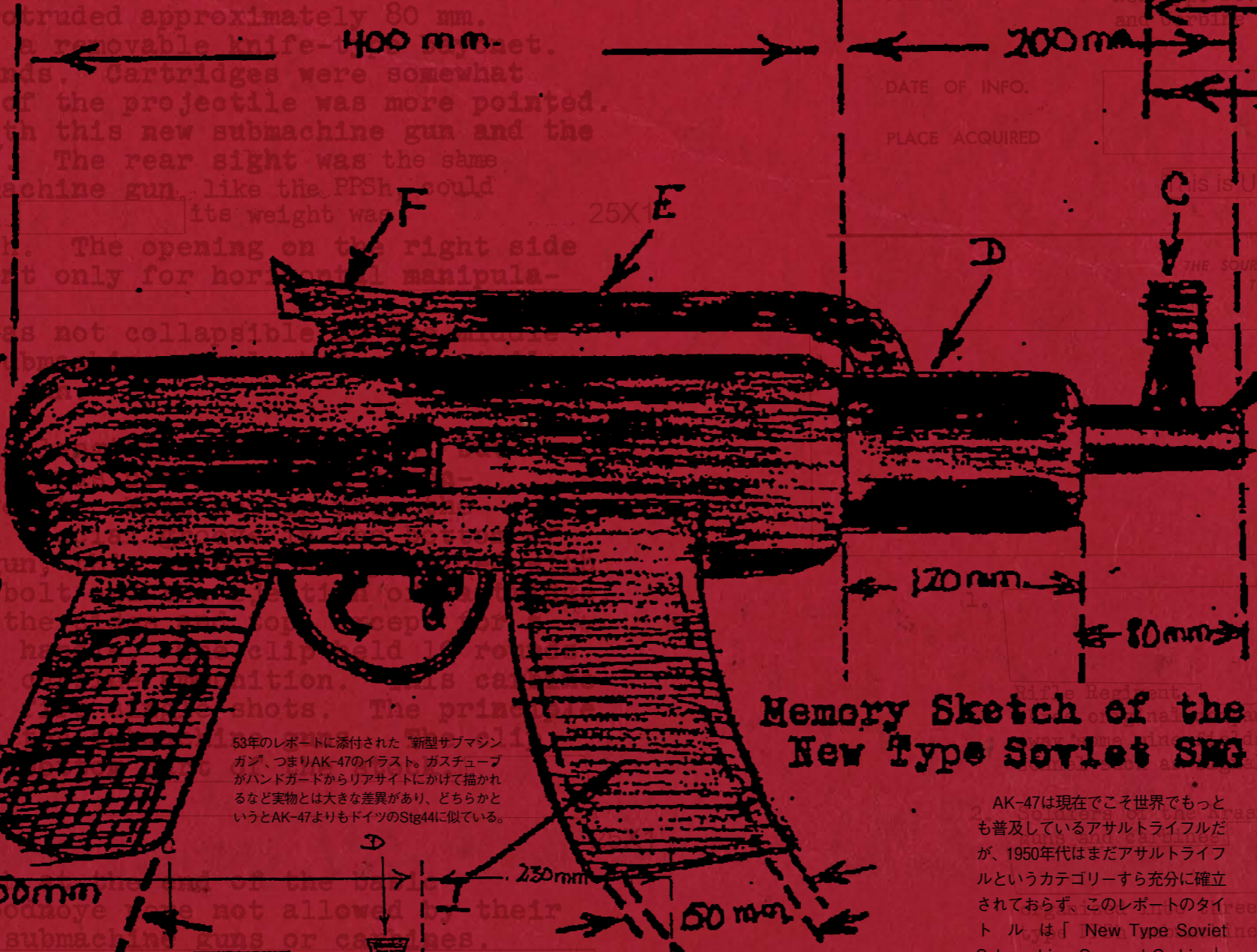
AK-47に使用する7.62×39mm弾とPPSh-41サブマシンガンの使用弾薬、7.62×25mmを比較したイラスト。どちらも弾頭が丸く描かれているが、実際の7.62mm×39mmは尖った弾頭を持ちサイズを比較しなくても一目で見分けがつく。

Total length: 1100 mm.



Legend

- A. Bayonet
- B. Barrel
- C. Front sight
- D. Jacket
- E. Gas manifold
- F. Rear sight
- G. Stock
- H. Handle grip
- I. Magazine with 30 cartridges



Memory Sketch of the New Type Soviet SMG

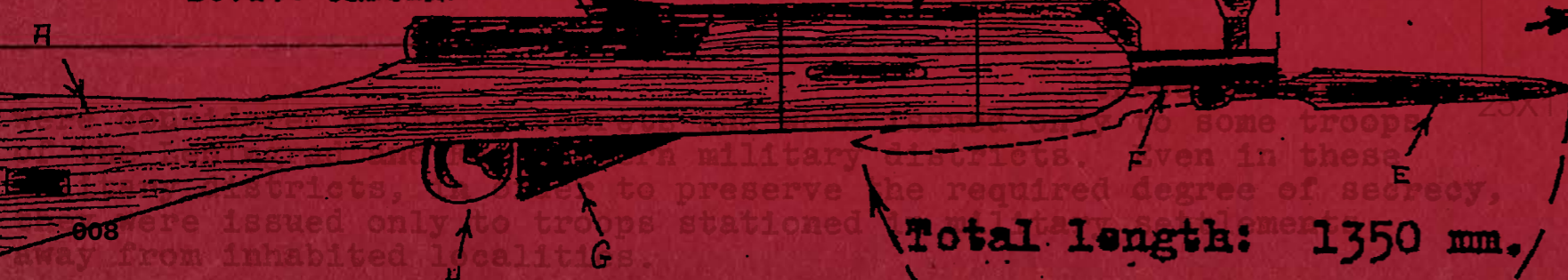
53年のレポートに添付された「新型サブマシンガン」つまりAK-47のイラスト。ガスチューブがハンドガードからリアサイトにかけて描かれるなど実物とは大きな差異があり、どちらかというときAK-47よりもドイツのStg44に似ている。

AK-47は現在でこそ世界でもっとも普及しているアサルトライフルだが、1950年代はまだアサルトライフルというカテゴリーすら充分に確立されておらず、このレポートのタイトルは「New Type Soviet Submachine Gun and Carbine」(ソ連の新型サブマシンガンとカービン)となっている。レポートによるとAK-47の支給はエージェントの潜入した部隊の中でも古参兵に限られ、新兵たちは第二次大戦時に採用されたPPShサブマシンガンとM44カー

ビンを持っていたとある。さらに興味深いことに新兵たちは基礎訓練における宣誓を終えるまで、AK-47と新型カービンに触れるどころか近くことすら許されなかった。添付されたイラストはおぼろげな記憶をたどって描かれたようで現在の目ではとても似ているとは言えないが、ピストルグリップやバナナ型弾倉など従来のライフルとはまったく異なる特徴はしっかりと捉えられている。さらにレポートを読めるとこの新型サブマシンガンはバットストックが着脱可能な木製と折りたたみ式の金属製の二種類があると書かれているが、実際にAK-47は固定式だった木製バットストックがちょうどこの時期に着脱式になり、ふたたび固定式に改められている。レポートによると新型サブマシンガンの一番の特徴は「本体の上にあるガスチューブ」で、イラストでもレシーバーの上部がM16のようなデザインになってい

るが、これはおそらく記憶違いで実際にはバレルの上に付いていたはずである。新型カービンはAK-47と同じ弾薬を使用するSKSで、イラストはAK-47よりも良く似ているのだが、レポートでは「オートマチックあるいはシングルショットで使用できる」となっており、実際にはセミオートオンリーであるこのカービンに関しては十分にその性能を把握しているとは言えない。レポートは銃本体だけでなく銃剣についても記述があり、AK-47は着脱式、SKSは折りたたみ式と正確な情報が記されている。どちらかというとき漠然とした内容だった1953年のレポートと比較すると55年版ははるかに充実しており、タイトルにもKalashnikovaという名称が見られるようになる。このレポートによるとAK-47はまだ全員に行き渡ってはおらず、支給は分隊長や小隊軍曹などの下士官に限られていた。AK-47に関する情報は相変わらず秘

Memory Sketch of the New Type Soviet Carbine



Total length: 1350 mm.

同レポートに登場するSKSのイラスト。折りたたみ式銃剣はもともとスパイク式で、のちに中国製のAK-47である56式に取り入れられた。

Рис. 1. Общий вид автомата Калашникова:

а — с деревянным прикладом (АКМ); б — со складывающимся прикладом (АКМС)

АКМ-интерпретация. Внешне АК-47 и АКМ почти идентичны, но конструкция приклада и механизм управления огнем претерпели изменения. Здесь показаны изменения в конструкции: в АКМ вместо привычного 6х30-мм патрона использован 6х30-мм патрон, а в АКМС вместо привычного 6х30-мм патрона использован 6х30-мм патрон, а в АКМС вместо привычного 6х30-мм патрона использован 6х30-мм патрон.

Складной приклад АКМС. Разложенный приклад АКМ и АКМС имеют одинаковый угол наклона. Обратите внимание: здесь также показаны 6х30-мм патроны, которые можно использовать в качестве пружинной системы. Это очень удобный вариант, поэтому этот механизм был принят в АКМ и АКМС.

Складной приклад АКМС. Разложенный приклад АКМ и АКМС имеют одинаковый угол наклона. Обратите внимание: здесь также показаны 6х30-мм патроны, которые можно использовать в качестве пружинной системы. Это очень удобный вариант, поэтому этот механизм был принят в АКМ и АКМС.

Рис. 55. Откидывание складывающегося приклада

АКМ

Operating manual

АКМ運用マニュアル

西側諸国のライフルよりもはるかに実戦向きの性能を持ったAK-47だが、採用から10年が経った1959年にはさらに改良が加えられたAKMが登場する。当時ソ連軍が発行したAKMのマニュアルを見ればAK-47に求められたものが何だったのか、理想的なアサルトライフルとは何かが見えてくる。

ソ連軍が歩兵戦における切り札として採用したAK-47は当時としては充分過ぎるほどの性能を持っていたのだが、削り出しのフレームで製造コストがかかる、下向きに付けられた銃床によって射撃時のコントロールに

難があるといった弱点もあった。AK-47の採用から10年後の1959年、ソ連軍はこれらの弱点を克服した新型AKを採用する。Avtomat Kalashnikova Modernizirovanny (オートマチックカラシニコフ近代

型)、あるいはそれを略してAKMと呼ばれる新型AKはレシーバーがAK-47の初期生産型よりも精度の高いプレス加工で作られており、製造面での負担が軽くなっただけでなく直銃床の採用、そして機関部に発射速



(上右) 敵のシルエットとAK-47のサイトピクチャー。ノッチサイトはAR-15に備えられたピーサイトに比べると暗闇に強いという特徴がある。(左奥上) リアサイトのアップ。距離の調節はつまみを押しながらスライドを前後させて行なう。イラストでは目盛りが1000mまで刻まれているがAK-47では800mまでしかなかった。(左奥下) バットストックに内蔵されたツールキットを取り出しているところ。ツールキットはボアブラシやピックなど6つのツールで構成される。(左) ツールキットとクリーニングロッドの組み合わせ。ツールキットのケースがハンドルとして役立てられている。(下) マズルのアップ。右側にはAKMの中期型から備えられるようになった竹槍状のマズルブレーキが描かれている。(下右) 銃身の下に取り付けられたクリーニングロッド。

Рис. 26. Основание мушки:

а — с муфтой ствола; б — с компенсатором; 1 — упор для шомпола и штыка-ножа; 2 — ползунок с мушкой; 3 — предохранитель мушки; 4 — фиксатор; 5 — муфта ствола; 6 — компенсатор

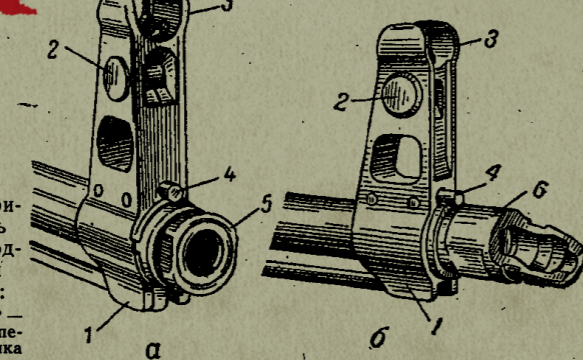


Рис. 4. Отделение шомпола



Рис. 10. Вкладывание пенала в гнездо приклада



Рис. 2. Основные части и механизмы автомата:

1 — ствол со ствольной коробкой, с прицельным приспособлением и прикладом; 2 — крышка ствольной коробки; 3 — штык-нож; 4 — возвратный механизм; 5 — затворная рама с газовым поршнем; 6 — газовая трубка со ствольной накладкой; 7 — затвор; 8 — шомпол; 9 — цевье; 10 — магазин; 11 — пенал с принадлежностью

6х30-мм патрон и разборку АКМ. АКМ-интерпретация и разборка АКМ почти идентичны, но конструкция приклада и механизм управления огнем претерпели изменения. Здесь показаны изменения в конструкции: в АКМ вместо привычного 6х30-мм патрона использован 6х30-мм патрон, а в АКМС вместо привычного 6х30-мм патрона использован 6х30-мм патрон.

北ベトナム軍フォトアルバム

—彼らはいかにして進み、いかにして戦ったのか—

信じ難いほどの労苦を重ねて勝利を掴んだ北ベトナム軍の兵士たち。当時の写真を通して、彼らが南への道のりと南での戦いで見たのはどのような光景だったのかを探ります。

文／鈴木健太郎 写真／WPPアーカイブ、D White コレクション、US. ARMY



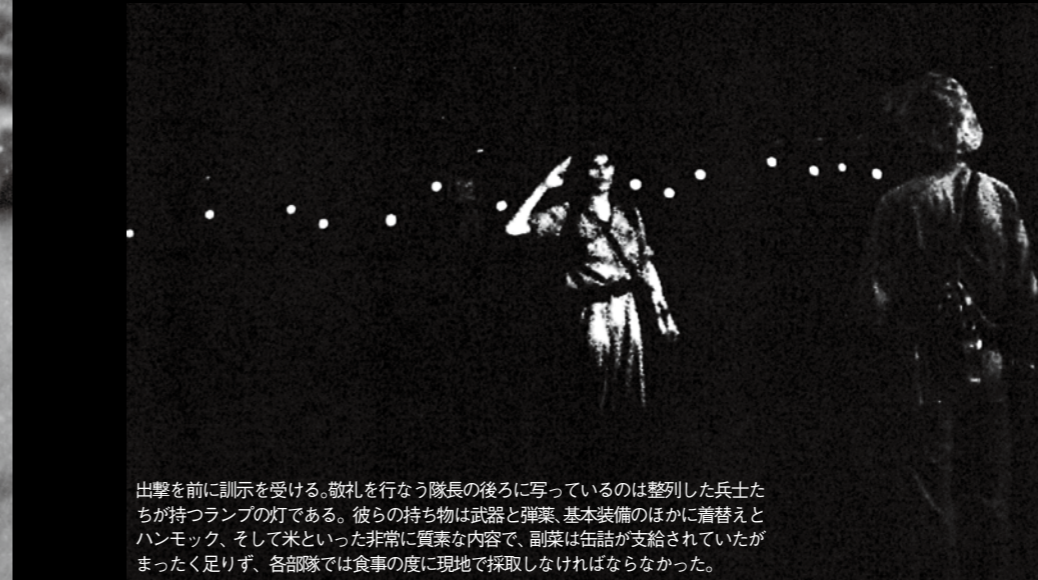
しばしの休息の間、遠く離れた故郷に思いを馳せる。北ベトナム軍の兵士はアメリカ軍や南ベトナム軍と戦う前に長い行軍による疲労や病気、孤独とも戦わなければならず、かなりの自制心が要求された。写真の兵士が上半身にかけているのは鹵獲したアメリカ軍パラシュートの端切れで、擬装具やグランドシートとして使え、肌寒いときはショールにもなる優れた物として北ベトナム軍兵士に大変な人気があり、解放戦線による使用例も多い。



市街地を行進するベトナム労働青年同盟の子供たち。北ベトナムはソ連や中国と同じく青少年に対する共産主義の理念の教育に力を入れており、ホーチミンの死去とともにホーチミン労働青年同盟と名を変えたこの組織で培われた奉仕の精神は軍に入隊した後も大いに役立った。



シュプレヒコールをあげる兵士たち。南ベトナムを倒して国家統一を果たすという大義のため、兵士たちは数々の困難が待ち受ける軍務に対しても不平や不満を表に出すようなことはめったにせず、身体が弱いなどの理由で兵役を免除された一部の者は国の役に立てないことにコンプレックスを抱えたり、周囲から非難を浴びたりすることもあった。



出撃の前に訓示を受ける。敬礼を行なう隊長の後ろに写っているのは整列した兵士たちが持つランプの灯である。彼らの持ち物は武器と弾薬、基本装備のほかに着替えとハンモック、そして米といった非常に質素な内容で、副食は缶詰が支給されていたがまったく足りず、各部隊では食事の度に現地で採取しなければならなかった。



長く険しい南への行軍。兵士全員が枝葉で入念に擬装を施している様子が分かる。北ベトナム軍は移動中の交戦を避けるためほとんどの部隊がラオスやカンボジアを経由して南ベトナムへ侵入するホーチミンルートを通っていたのだが、アメリカ軍あるいは南ベトナム軍の爆撃と特殊部隊による破壊工作の危険があり気を抜くことはできなかった。

爆撃によって破壊された橋の修復作業。爆撃機がいつたたび現われるか分からない状況での作業は困難をきわめ、機材らしき物もほとんどなかった。この写真では防着帽に擬装を施していない兵士、さらに帽章も取り外している兵士もおり着用法に差異が見られるのが興味深い。



ランプを手にした兵士たち。軍用の灯りとしては光量があまりに物足りないが、アメリカ軍と南ベトナム軍に制空権を握られている状況では最低限の明るさで夜間に行動するのがもっとも安全だった。暗い写真で少々見づらいが、中央の兵士は防着帽に擬装網を被せ、さらにアメリカ軍パラシュートの端切れを付けている。



ベトコンを探せ!

NIGHT HUNTER OPERATION

Part 4

卵型の胴体が特徴的なOH-6と対地攻撃ヘリのAH-1Gが協働して夜間のゲリラ掃討作戦を展開。

訳と構成／コンバットマガジン編集部 写真／US Army, DoD

1968年10月31日から11月4日にかけて実施すべく、新しい作戦が発令された。これはメコンデルタにいる敵の部隊と、軍事物資を運ぶために、デルタ内に張り巡らされた水路を叩くことが目標だった。「ナイトハンターコンセプト」と呼ばれた新規作戦のテストを行ったのは、第9歩

兵師団第1大隊で第17騎兵部隊の支援担当だった第3部隊A小隊である。

このタイプの作戦が成功する条件としては、作戦実施地域にほとんど人が住んでおらず、植物が濃密に繁茂するエリアが、それほど広くない場所が望ましかった。サイゴンの南に広がるメコンデルタは、まさにう

ってつけだった。メコン川によって形成されたデルタは、ほぼ土地の高低差がない。建物らしい建造物もほとんどない。周囲を見渡して目に入るのは、ニッパヤシとどこまでも広がる水田だけである。ところどころ、あいだに藪や樹木が茂っていた。

このようなエリア内において、人

が住んでいる場所は、作戦実行上ほとんど問題にはならないと分かっていた。なぜなら、そうした場所では、人家は水田の近くにまとまって存在するか、もしくは遡行可能な水路に沿って集まっているからである。しかも、そのような水路沿いには、ニッパヤシはほとんど生えていない。

生えていたとしても、水路の行き来を邪魔するほどではない。

「ナイトハンター作戦」は、地上の偵察レーダーが捕らえた目標を撃破するのが目的だった。ナイトハンターの部隊編成は、車載式AN/TPS 25レーダーセット1基、航空騎兵部隊、水上パトロール艇と待ち伏せ地点を

カバーする歩兵部隊と砲兵隊で構成されていた。

指揮統制組織は、地上偵察レーダー探査センターに置かれている。そこには、歩兵旅団司令と支援砲兵大隊司令、そしてS-3航空騎兵司令と水上部隊の各部隊の司令がいた。

指揮統制を担当する部署では、レ

ーダーによる探査を実行し、データを収集し、それらを図面に落とし込んで分析を行った。範囲が狭くて、かつ外部とつながりがない地点へは、火砲のみで攻撃を行った。攻撃目標として、ある程度の規模と集積度合いが高いと認められたエリアには、機動部隊をまるごと投入した。

急襲作戦や奇襲戦法で敵を片付ける戦法が、最大の効果をあげた順番を時系列順に整理し、綿密に検証した。機動部隊によるすべての行動を部隊全員に説明をしたのちに、砲兵隊が目標到達時間(TOT)を割り出した砲撃を開始した。これは高性能爆弾を、タイミングを変えながら

ミリタリア・ラウンドアップ! U.S. ARMY シャツ&トラウザーズ

Part 3

ミリタリー・ユニフォームに限らず、衣類の基本となるシャツとトラウザーズ。
Part3の今回はファッションアイテムとしても定着しているコットン・カーキ、通称“チノ”シャツ&トラウザーズ。
そして第2次大戦後のウール・フィールド・トラウザーズを紹介しよう。

解説/菊月俊之 写真/青木健格 撮影協力/中田商店 ☎03-3823-8577 <https://www.nakatashoten.com/>、MASH ☎06-6567-3312 <http://www.mash-japan.co.jp>

カーキ色とアメリカ軍ユニフォーム

ミリタリー・ユニフォームの色にはさまざまな種類が存在し、国ごとに独自の色を使用してきた。その中で各国軍によって広く使用されてきたのが、薄い茶褐色のカーキ (Khaki) 色だ。最初にカーキをミリタリー・ユニフォームを使用したのはイギリス軍で、「インド大反乱 (1857~59年)」中に白のユニフォーム上下をカーキ色に染めている。ちなみにカーキとはベルシャ語に由来するヒンドゥー語で、「埃」の意味だ。

その後アメリカ軍も1898年の米西戦争 (アメリカ・スペイン戦争。戦場はキューバとフィリピン) で最初に使用した。アメリカ英語の“カーキ”には①「明るいオリーブ・ブラウン、または黄色がかった茶色」、②「①の色の布地」の意味があり、複数形では「カーキ色の布地のユニフォーム」となる。

一般に“チノ”と呼ばれるコットン・カーキ・ユニフォームだが、本来の意味は綾織のコットン生地のごとで、“チーノズ (Chinos)、または“シーノズ”と発音。また、この布地を使用したズボンも同様に“チーノズ”と呼ぶ。この呼び名は“China (中国)”から来たもので、イギリスで生産されたコットン生地がインド経由で中国に渡り、それをアメリカが輸入したことに由来している。

第2次大戦中におけるアメリカ陸軍カーキ・ユニフォームの布地は陸軍規定600-35で定められており、41年11月10日制定版には

- ①コットン 8.2オンス
- ②平編みレーヨン 7~8オンス
- ③平編みコットン (コットン縦糸、横糸モヘア)
- ④トロピカル・ウーステッド (梳毛織物)

の4種類が記載されている。これが44年3月31日の改定で、①のコットンにはシャツの生地を6オンスに変更。そして新たにギャバジンが追加された。また、41年版のAR600-35ではカーキの色調について言及していないが、44年版ではカーキNo.1と規定している。

コットン・カーキ・シャツ (第2次大戦) SHIRTS, COTTON, KAHKI(WW2)

コットン・カーキ・シャツとトラウザーズは夏期用ユニフォームだが、1938年までシャツはジャケットの下に着用されていた。カーキ・シャツは熱帯のバナー運河管区の要望で開発されたもので、陸軍補給部は1935年にオックスフォード生地のコットン・カーキ・シャツを試作し、試作品をバナー管区に送付。試作品は好評をもって迎えられている。そして陸軍補給部はバナー、ハワイ、フィリピンにおいてシャツ単体での着用を検討。36年に同地域での着用が認められた。また、アメリカ国内でも夏に高温となる地域があることも考慮されている。38年4月18日、コットン・カーキ・シャツは正規のユニフォームとして採用され、従来のコットン製サービス・コートは廃止された。

1941年には再度バナー運河管区から再度シャツの襟に関する要求が出され、襟を閉じた状態と開いた状態で着用できる“コンバーチブル・カラー”のシャツが試作され、これが41年11月27日に採用されている。コットン・カーキ・シャツのスペック (仕様) はウール・シャツと同じだが、これは前回触れたように戦時の大量生産に配慮し、メーカーが設備や製造工程を変えなく両者を製造できるようにするのが目的だった。

大戦中の1942年にシャツの布地が6オンスに変更されたが、これは戦争で原料の確保が困難になると判断されたのが理由。45年3月にはさらに薄い5オンスの布地を使用することが決定されている。



1899年当時のアメリカ陸軍ユニフォームを描いたイラスト。アメリカ陸軍のユニフォームは独立戦争以来ブルーだったが、98年にはカーキ色のユニフォームを導入。同年に勃発した米西 (アメリカ・スペイン) 戦争で限定使用されている。最初のカーキ・ユニフォームはジャケットとトラウザーズから構成され、シャツが夏期ユニフォームのアウトとして着用されるようになるのは1930年代から。



補給部ラベル

将校は自前でユニフォームを揃えるのが建前だが、陸軍補給部では主に任官したての将校 (いわゆる新品少尉) のためにオーダー品より安価な既製品を販売していた。それら陸軍補給部調達品のユニフォームには機械織りで“REGURATION ARMY OFFUCER'S”とアイテム名が表示されたラベルが付けられている。



クロージング・タグ

軍放出品で未支給のものに稀に見られる紙製のクロージング・タグ。これはユニフォームの製造工程で同じ衣類を縫製する際にサイズの異なるパーツが混じって製造ミスが発生するのを防ぐためのもの。一番下にシャツのサイズが表示されている。



補給部タグ

将校用シャツに縫い付けられた陸軍補給部のタグ。写真のものは1944年11月17日制定のスペック (仕様) 482にしたがって作られたもので、6オンスのコットン生地を使用。よく見るとアイテム名2行目“STAND-UP”が“STAHU-UP”と誤記されている。



襟元

写真の将校用シャツは“スタンドアップ”と呼ばれる台襟の付いたデザイン。台襟は襟を首に沿って立たせるためのパーツで、ネクタイを着用することを前提としたもの。大戦中には襟を閉じた状態と開襟で着用できるコンバーチブル・カラーにしたシャツが採用されている。



袖口

将校用シャツの袖口はボタン2個が一般的だが、写真のコットン・カーキ・シャツは下士官兵用シャツと同じで、ボタン1個となっている。



ショルダー・ループ

将校用コットン・カーキ・シャツは両肩にショルダー・ループが付いているのが下士官兵用シャツとの違い。



将校用カーキ・シャツ (オーダーメイド品)

こちらはオーダーメイドによる将校用カーキ・シャツで、生地に夏用のトロピカル・ウーステッドを使用している。ウーステッドは梳毛糸 (毛足の長い原毛を引き揃え、短い毛を取り除いて紡績した糸) で織った毛織物で、繊維がはつきり出て、腰が強く張りがありシワになりにくいのが特徴。製作年は不明だが、袖口のデザインから1944年以前のスペック98に基づいて作られているのが判る。(撮影協力:MASH/91-00-7756 US ARMY WW II 将校用・カーキシャツ/価格1万8700円)

襟元

襟は今回紹介した補給部製と同様に台襟付き。ただしオーダーメイド品ということで、襟と背中のヨーク (肩から背中にかけての切り替え部分のパーツ) 内側には汚れをめたたなくするための別布が付く。



テラー・ラベル

ラベルの“Gayson”はグッドオール・ウーステッド社の商品名で、同社は1920年代からウーステッド生地を使った民間向けの夏用衣類を製造販売していた老舗。ラベルに表示された“Parm Beach”はグッドオール・ウーステッド社が製造したウーステッド生地の商品名だ。

エアボーン・オーバル

左胸ポケット上には楕円形の“エアボーン・オーバル”が付く。これは着用者の所属部隊を示すもので、アメリカ陸軍では“バックランド・トリミング (台地の縁取り)”と呼び、上にパラシュート章またはグライダー章を着用する。この徽章は部隊によって配色が異なっており、写真は空挺司令部 (Airborne Command) のもの。



ダグラス・マッカーサー元帥

太平洋戦争敗戦後の占領時代 (1945~年) を象徴するものの一つがコットン・カーキ・ユニフォームだ。45年8月30日に厚木基地に到着したダグラス・マッカーサー元帥はカーキ・ユニフォームを着ていたが、そのラフなスタイルで日本人を驚かせるとともに、その堂々とした振る舞いで強い印象を与えている。(Photo : U.S.Army)



ショルダースリーブ・インシグニア (SSI)

左肩には空挺コマンドのショルダースリーブ・インシグニアが付く。空挺司令部は第2次大戦中の1942年3月に創設され、空挺部隊の編制と訓練を担当した。44年3月に空挺センター (Airborne Center) に改編され、戦争終結後の46年6月に活動を停止している。



袖口

袖口を閉じるボタンは2個。1944年にはスペックが“482”に変更され、左ページの陸軍補給部調達品のようにボタンは1個となった。シャツのスペックはウールとコットン製で共通だったが、44年にはそれぞれ別に変更されている。

内蔵するマグナメカは、最新・現行のVer.3. オフィサーズACPサイズのショート・マガジンながら、トリガーを引く度にキレの良いアクションと強いキックが楽しめる。

マガジン・ウェル、キンバー・タイプのウッド・グリップ、そして精度の高い機械加工を駆使した6個のライトニング・カットなど、魅力満載のキンバー・プロキャリー・カスタム。実戦で高度な機能的を発揮する外装パーツのコンビネーションも大きな魅力だ。



●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
@ウエスタン アームズ #03-3407-5922
<http://www.wa-gunnet.co.jp>

COLT COMBAT ELITE G10 GRIP Ver.

コルト・オリジナル・タイプの
G10グリップを標準装備した
硬質感あふれるM1911コンバット・エリート!



2020年12月末に年末年始限定スペシャル・モデルとしてデビューし、M1911ファンの注目の集めたウエスタンアームズ（以下:WA）の2018年リニューアル版“コルト・コンバット・エリート/ディフェンダー”。WAコンバット・エリート新シリーズはこの1挺から始まった。

MkIVシリーズ80で登場したコルト社のM1911コンバット・エリート・シリーズは、スライドをガンブルー、フレームをシルバーとした2トーン・カラーのM1911に、機能性の高い外装パーツを組み込んだマスプロ・カスタムとして一世を風靡した。このセミ・カスタムをベースに、2018年には更に進化した近代的なパーツ構成と、サイド・シルバーのスタイリッシュな外観にリニューアルされ、コンバット用M1911ハイ・グレード・シリーズに君臨している。

この2018年リニューアル・シリ

ズを、サブ・コンパクト・モデルのディフェンダーでスタートさせたWAでは、続いてファン待望のフルサイズ、5インチ・バレルのM1911をモデル・アップ。CBHWを本体素材に、サンドブラストと粗めのヘアラインを残したサイド・ポリッシュという手間を掛けたフィニッシュでオール金属モデルの重厚な外観を再現し、発売と同時に人気モデルのひとつに仲間入りした。

今回は、そんな近代的コンバット・カスタム、フルサイズの“コルト・コンバット・エリート/G10グリップVer.”が再登場する。

本体素材はCBHW。サンドブラ



次世代電動ガン
TOKYO MARUI H&K
MP5SD6

Photo & Text by Takeo Ishii



**遂に次世代で登場!
特殊部隊仕様の大容量サプレッサー付MP5!**

発売以来大人気で「生産したら即完売!」状態が続く次世代MP5A5に、待望のバリエーションモデル「SD6」が発売になった! 純正Li-Po時代の到来を見据えた電子制御回路「Mシステム」の搭載、究極のリアリティを追求したマテリアルの採用とボディ造形に加え、SD6ではさらに「使用者の目線」に立った親切設計も光る!

“対テロ部隊御用達のMP5”を象徴するSD(シャルデンブファー)!

特殊部隊御用達の高精度サブマシンガン＝H&K MP5。その中でもひととき存在感を放ちカッコ良いのが、ド迫力の大口径&大容量インテグラル・サプレッサーを備えた「SD」タイプだ。「SD」とはドイツ語の消音装置＝Schalldämpfer(シャルデンブファー)に由来する。

実銃ではMP5A5の銃身長が225mmなのに対し、SDは146mmと約8cmも

短く、基部に30個ある直径2.5mm程の穴からサプレッサー内部に発射ガスが拡散、バレルを通過する9mm弾頭の初速を音速(＝マッハ1＝時速1234.8km＝秒速343m)より大幅に減速し「かなりマージンを取った亜音速」にする事で銃口から迸る衝撃波の発生を防ぎ、減音効果を最大限に高めるのだ。

この特殊な銃を世界中に強く印象付けたのが1977年に発生した「ルフトハンザ航空181便ハイジャック事件」である。事態打開のため投入さ

樹脂製バッテリー用カバーの採用によって「8.4v1300mAhニッケル水素ミニSバッテリー」が本当に気持ち良くストレスフリーでピッタリ収納できる! さらに製品には純正Li-Poバッテリー用カバーも付いている。これには柔らかいハンドガード部分を握った際に凹まないようにする効果もあるとのこと。

月刊
THE グリーンベレー
GREEN BERET vol.49
文/DJちゅう 写真/U.S.ARMY

Special Forces Team Specialties

スペシャルフォース チームスペシャリティズ 後編



2022年も残り僅かとなってしまいましたね。皆様が読んでいるタイミングとしては年末や年始をお迎えしている頃だと思いがいかがお過ごしでしょうか。僕は今年の紅白歌合戦に推しの櫻坂46が出演しないことに泣いています（頑張れ日向坂46）。振り返ると今年の1年も毎月やってくる当連載をなんとか完走できてひと安心。2023年もグリーンベレーの魅力を少しでもお伝えできるよう頑張りますので、どうぞよろしく願います（うさぎのポーズ）。

さて、締めくくりは「スペシャルフォース チームスペシャリティズ」の後編！前号ではMFF（ミリタリーフリーフォール）／HALOチーム、マウンテンチームを紹介しましたが、今回はコンバットダイバー／スクーパーチーム、MAROPS

チーム、モビリティ／マウンテッドチームのご紹介です。水辺に関する専門と、多岐にわたる軍用車両を駆使用する専門チームですね。大体これで専門性を持つAチームに関して網羅したので、自分に合った専門分野を決められるんじゃないかなと思います。泳ぐのが好きだったり、山登るのが好きだったり、とにかくハードに自分を追い込んで高みを目指したい人だったり、各自の適性を活かしたチームチョイスをしていきましょう。ちなみにグリーンベレーになったばかりで、ハードで有名なマウンテンチームに配属になったけど、チームにまったくついて行けずリーダー権限で他のODAに回される……なんて話も聞きますので、適性はかなり重要そうですね。とくに潜水と山岳はハードなようですね。

なお、すべてのチームが専門性を持っているわけではなく、そのほかの専門性のないレギュラーチームは「ラックチーム（Ruck Teams）」と軍では呼ばれています。なんでラック？ と思い、

仲の良い退役グリーンベレーで現EX UMBRIS DESIGNS CEOのエリックに意味を伺ったところ「ラック（リュック）のラックだよ！」とのこと。なるほど。

参考文献 SOFREP [Special Forces Dive Medical Officer (DMO)] [Exclusive: The perilous state of the Special Forces Combat Diver capability] [Neglected & Misunderstood: Senior Green Beret speaks out about the SF Combat Diver capability], SANDBOXX [SPECIAL FORCES COMBAT DIVERS EXPLORE RESERVOIRS BENEATH NORAD'S MOUNTAIN COMPLEX] [THE ICY WORLD OF SPECIAL FORCES COMBAT DIVERS]



VIGILANT ISLES 22

3回目となる日英共同訓練「ヴィジラント・アイズ」が開催された。我が国で開催されたのは今回が2回目となる。コードネームを直訳すると「常に目を光らせている島」となる。日本とイギリスは島々で構成された同じ特徴を持つ国。だからこそ島嶼防衛は重要であり、訓練を重ねている。共通の目標を持つ日英部隊が、約1週間をかけて共に戦い抜いた。

2022年11月22日から30日に渡り、日英共同訓練「ヴィジラント・アイズ」が開催された。訓練の目的は「英陸軍と実動訓練を実施し、作戦遂行能力・戦術技量の向上を図るとともに、陸自と英陸軍との相互理解・信頼関係の促進に資する」としている。

日本側から第1空挺団、英側から第1王立騎馬砲兵連隊が訓練実施部隊となる。それぞれ約80名、計160名が参加した。訓練場所となったのは、相馬ヶ原演習場（群馬県）や白河布

引山演習場（福島県）、三沢対地射撃場（青森県）等だ。

日英両政府は、2カ国間において、防衛協力を進めており、将来的には日米同盟に準ずる安全保障上欠かせない関係を構築しようとしている。その理由として、日本とイギリスは島国であり、多数の島嶼部を抱えており、非常に似た地理的特性を持つ。そのため、部隊編成や装備体系は似

ている。事実、次期戦闘機の開発は日英で行なう計画だ。現在、正式合意に向けて動き出しており、イタリヤも参加する巨大なプロジェク

トとなりそうだ。さらに「自由で開かれたインド太平洋の維持・強化」を目指すという共通の目標も持つ。ここも非常に重要だ。2021年には英空母「クイーン・エリザベス」がインド太平洋地域へと展開し、その途上、日本に寄港している。

日英間は戦後から防衛交流は行なわれていたが、こうした流れが出来たのは、2015年からだ。この年、日英政府により初の外務防衛担当閣僚級協議2+2が行なわれ、ここから全てが始まった。

その後も会合が何度か行なわれ、その中で陸自と英陸軍との共同訓練開催が盛り込まれた。そして2018年

に初めて「ヴィジラント・アイズ」が実施された。場所は富士学校や東富士演習場が使われた。続いて2019年には、スコットランドで開催された。以降、毎年日英間で交互に実施していくことが決まったものの、世界はコロナ禍に陥る。この影響で、2020年および2021年開催回が中止となり、今回ようやく3年ぶり3回目の実施となった。

訓練内容は当然ながら島嶼防衛作戦だ。訓練は2段階に分かれており、まず22日から26日にかけて機能別訓練として、主として相馬ヶ原演習場にて各訓練課目を日英で実施していた。そして26日から30日にかけて、3夜4日という連続した状況の中、敵



第1ヘリコプター団所属のCH-47JAチヌークから降り立つ英陸軍兵士。彼らはラクヒルに所在する第1王立騎馬歩兵連隊だ。